

幼稚園教諭における挫折体験の実存的意味  
－ <折れない心>の形成 －

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
人間形成・臨床教育クラスター  
和佐田 強

本稿では、幼稚園教諭の新任時代に焦点を当て、直面した挫折体験がどのようなものだったのか、それが<折れない心>へと繋がっていったのかを見ていく。遭遇する「危機」を生々の非連続的的局面として捉える実存哲学を手掛かりに、幼稚園教諭自身の語りとあわせて、挫折体験の実存的意味、「危機」に対処する<折れない心>の形成、危機への援助について考えていく。

実存哲学によれば、「危機」は生活の中へ突如、激しさをもって入り込んでくる。そして、その「危機」を耐え抜き突破することによってはじめて、人間としての「新しい出発」が始まるという。ご協力頂いた幼稚園教諭の方々には、それぞれに挫折という「危機」があった。そして、それぞれの仕方でもその「危機」を突破したとき、それまで辛く思えた事柄さえ平常のこととして受け止められる心の状態に変化した。彼女たちが挫折という「危機」を乗り越えたとき、それまでより高次の心の段階、一つの<折れない心>がもたらされた。しかし、この<折れない心>は、それから先の何事にも決して折れることのない完璧な心ではなかった。また違った新たな危機が襲ってくる可能性の中に人は生きている。新たな危機に対して、今度は耐えられず独り沈んでしまう惧れは払拭されない。

「危機」に遭遇し耐える人がいるとき傍らにあるものの態度はどうあるべきか。本研究が、新任幼稚園教諭への今後のサポートに少しでも参考となれば幸いである。